せんかん

大和をつくった鉄新聞

大古小学校 三年
荒神 歩
濵本 惺大
平成27年10月28日

今年のテーマはこれ！

ぼくたちは、一年生から三年間、たくさんの船を追いかけてきました。ぼくたちの住む瀬戸内海には、岩塩のある島や鉄を作る工場などたくさんあります。また、船をつくる造船所や自動車を作っているマツダも近くにあります。船や車を作っている「鉄」はどのようにして作られているのだろうとふしぎに思い、夏休みに鉄を作っている西日本せいてつ所の見学と大和ミュージアムに行ってきました。たくさんの船が通る呉湾にせまりました。

鉄の歴史

ぼくのおじいちゃんは、IHI（今は、JMU）ではたらいていました。せんかん大和がつくられた所です。日本は、昔、せんそうをしていました。たくさんのぶきやせんかんをつくるために、人々がはたらいていたそうです。呉は、せんそうが終わって、帰ってきた男の人がはたらく場所がひつようとなり、鉄や船をつくるさん業として発たつしました。

大和ミュージアムで、全長二六・三mある$\frac{1}{10}$の大きさのせんかん大和の大きさにびっくり！

鉄の主な原料

鉄こう石

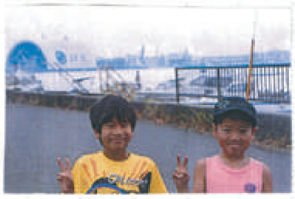
石炭（コークス）

石灰石

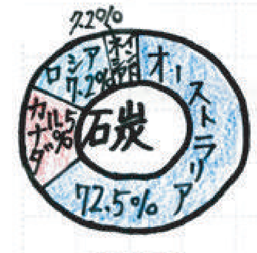
焼結鉱
石炭
焼結鉱
コークス

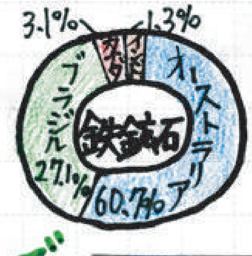
石灰石いがいの原料はすべて海外から船で運ばれてきています。

海外から約一ヶ月ぐらいかけて、船はほぼ毎日、港に入ってきているそうです。船からのつみおろしがしやすいように海が近いです。

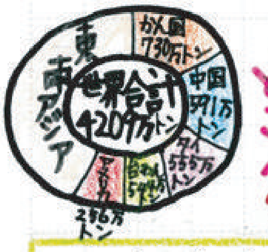


原料はどこから？

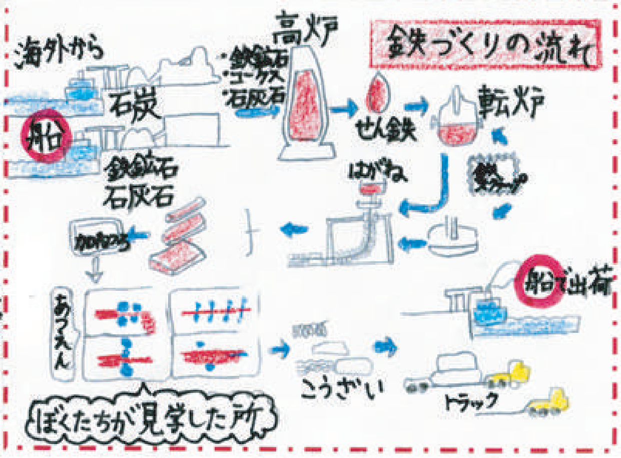




できたせい品はどこへ？



原料を入れて、とけた鉄がでてくる高炉・どろどろの鉄を入れた大きなかまが線ろを通って、はこばれていました。その鉄が真っ赤な鉄の板となって何回ものばされていく様子を見ました。さいごは2ミリぐらいのあつさまでになっていっきに冷やされてぐるぐるまきにいっしゅんでなりました。



へんしゅう後記

工場の中をバスにのって見学しました。鉄を作っているところを初めて見ました。工場の中には、港や線路があって、とても広かったです。工場の中はとてもあつかったので働いている人も大変だと思いました。

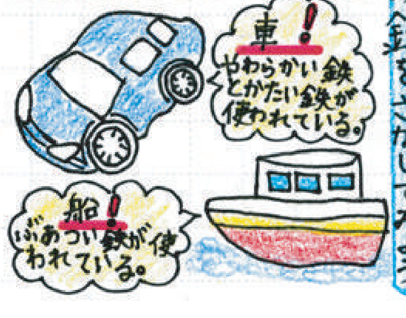
荒神 歩

原材料は、海外からほとんどきて、せい品となって、海外に出ていくことが分かりました。できた鉄は、マツダで車、ぞう船所で船になることが分かりました。人やせい品は、つながっているなと思いました。そして、日本と海外は、船でつながっていると思いました。

濵本 惺大

新かんせんのレールを作られるのは世界中で4つの工場だけ

身の回りの鉄をさがしてみよう


車！
やわらかい鉄とかたい鉄が使われている。
船！
ぶあつい鉄が使われている。

やわらかい鉄・かたい鉄

鉄には、やわらかい鉄とかたい鉄があることが分かりました。見た目は同じでもかんたんにまがるのとなかなかまがらないかたいものがありました。この性質を使ってせい品をつくっているそうです。船はかたい鉄を使ってがんじょうにしています。